

放課後等ディサービス事業所における自己評価結果(公表)

Dotti house

公表:令和2年3月2日

事業所名

(ドッティハウス)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			以上の事業所にも限り、生活空間と環境と整備している。
	2	職員の配置数は適切である	○			現状では十分な配置を図っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		角の床などに把手 ツヅキングード	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月1回の会議で目標を立て、	支援経過報告・個別支援計画モニタリング・サ担報告などに活用。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年12月～2月毎にアンケート調査。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		特に第三者評議会等を行っており。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		専門スキルを学ぶ機会を設けている。	外部研修を中心とした内部研修も月1回～2回実行している。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等ディサービス計画を作成している	○		聞き取りには、 面接を併用している。	当方の相談支援事業所を利用していきたい場合は、街へ連携している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するためには、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		直接保護者・学校など具体的なアセスメントを行いニーズを定めている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		特例プログラムを活用。	音楽教室・英会話教室・くもん学習。
適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		"	上記教室は各々アコス先生に指導して頂き内容は種類あり。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		行事以外にも ツヅキングード	行事やイベント的支援もある。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等ディサービス計画を作成している	○		専門スキルを活用している。	くもん学習の個別、金山以外は集団での行う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼、夕礼と 会議。	当日のスケジュールをソフトで販売している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	終礼を行って いる。	振り返りは翌日の午前中に実施している。終礼はいつかれた時間に。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援経過報告書類は毎回。	当方の相談支援事業所とも連携して、適宜記録を作成している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等ディサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		相談支援との連携もあり。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>	特にキーパーソン的職員	児童発達支援事業の中でも、キーパーソン的職員。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	<input type="radio"/>	学校等との連絡等が行われています。	枚岡西・池島学園・くるみ縄文館など、地域の学校の利用者が多いです。担任副担任といふ連携。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>		
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	<input type="radio"/>		現実的に卒園してしまうと、それがまでの連携が取りにくい。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	<input type="radio"/>	当方の相談支援事業所も連携あり。	系列法人の放課後等デイサービス事業所同時に情報共有できています。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	<input type="radio"/>		年に1~2回の施設合同バス遠足を催し、そこで交流あり。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>		
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>	差迎時行なう も意識している。	巡回かけてここまで共通理解を持っています。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレンツ・トレーニング等の支援を行っている	<input type="radio"/>		
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>	契約時行なう いて説明。	契約時行なうもちろん、その後も必要な程度に応じて説明あり。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		当方の相談支援事業所とも連携しています。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		年12月~2月の合同遠足の場では支援できています。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>	緊急対応マニュアルを整備しています。	法人内部でございます。対象委員会や必要に応じて横取さん、そこまで迅速に対応します。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		ドリームハウス新聞を毎月発行して情報発信しています。
	35 個人情報に十分注意している	<input type="radio"/>	常日頃、意識している。	契約時にもちろん、それ個人情報を注重している。
	36 障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		
	37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	<input type="radio"/>	地域の祭り 花火大会	花火大会やバス遠足のとき。

非常時等の対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	<input type="radio"/>	会議資料 でも使っている。	
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>	消防訓練 ではある。	毎年3回、9回で行っている。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>	専門スクール を立てている。	外部・内部の研修会を開催して行っている。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	<input type="radio"/>		子どもも身体拘束は行うことない方。 1回、特に計画書にも入れていて。 この青色法人の高齢者施設には
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		事業所内キッズに個別に掲示して いる。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		月1回の営業会議で各部署の梗概 をを行い情報共有している。

(身体拘束禁止委員会)
やります。